

夢をかなえるゾウ



● 「でも、なぜ寄付することが成功につながるんでしょうか？正直、わかりません」

するとガネーシャは「なんで今の一線級のギャグが分かれへんかな・・・」と小さな声で不満そうにつぶやいてから説明をはじめた。「ええか？ お金いうんはな、人を喜ばせて、幸せにした分だけもらうもんや。せやからお金持ちに『なる』んは、みんなをめっちゃ喜ばせたいて思てるやつやねん。でも、お金持ちに『なりたい』やつは、やれ車が欲しいの、うまいもんが食いたいやの、自分を喜ばせることばかり考えとるやつやろ。・・・まあ、でもそういう欲が悪いわけやないで。人間は自分の欲に従うて生きるしかないからなあ。最初はそういう、自分を喜ばせる欲をエネルギーにして進んでもええ。けどな・・・」

ガネーシャは続けた。

「世の中の人を喜ばせたいちゅう気持ちを素直に大きくしていくことが大事やねん。せやから寄付すんねん。自分はとにかく人を喜ばせたいし、助けたい。そういう人間になることや」

● 「トイレを掃除する、ちゅうことはやな、一番汚いところを掃除するちゅうことや。そんなもん誰かてやりたないやろ。けどな、人がやりたがらんことをやるからこそ、一番喜ばれるんや。一番人に頼みたいことやから、そこに価値が生まれるんや。分かるか？ 好きなことをしろなんて自分ら言われてきたんかもしらんけど——まあ好きなことするのも大事やけどな、それと同じくらい大事なんは、人がやりたがらんことでも率先してやることや。仕事できるやつらは全員そのこと知ってるで」

● 「自分らは、自分にサービスすることばかり考えてんねん。自分のエゴや欲を満たすことしか考えてへんねん。でもな、もっと他人にサービスすること考えて、そのことを自分の喜びにしてみいや。『人の欲を満たすこと＝自分の欲を満たすこと』このガネーシャ方程式が体に染み込んでたら、あとはほっといても成功するで」

● 「ええか？ 自分の中に足りないと感じてることがあって、それを何かで埋めようとするんやのうて、自分は十分に満たされている、自分は幸せやから、他人の中に足りないもんを見つけ、そこに愛を注いでやる。この状態になってこそ、自分が欲しいと思てた、お金や名声、それらのすべてが自然な形で手に入るんや。だってそやろ？ 自分らは、お金も、名声も、地位も、名誉も、自分で手に入れる思てるかも分からんけど、ちゃうで。むしろ逆やで。お金は他人がお前にくれるもんやろ。名声は、他人がお前を認めたからくれるもんや。全部、他人がお前に与えてくれるもんなんや」